

■参加費

プランA：チュートリアル+シンポジウム
一般：25,000円 (30,000円) / 学生：10,000円 (13,000円)

プランB：シンポジウムのみ
一般：19,000円 (24,000円) / 学生：5,000円 (7,000円)

参加費は5月15日までにWebにて事前登録していただき、期日までにお振込みいただけた場合となります。5月16日以降のご申し込みにつきましては括弧内の金額となりますのでご注意ください。詳しくは、

<http://ssii.jp/contents/participation.html>

をご覧ください。

なお、チュートリアルのみでの取り扱いはできません。

■懇親会

6月7日(木) シンポジウム終了後に懇親会を開催いたします。発表者および多数の聴講者・見学者の方々の交流の場としてご活用下さい。なお、懇親会は有料となります。

■展示会

展示ホールでは、併設展示会'07画像センシング展および同時開催で光ナノテクフェア2007 (入場無料)を開催いたします。展示についてのお問い合わせは下記へお願いいたします。

'07画像センシング展

お問い合わせ：(株)精機通信社

Tel：03-3367-0571

<http://www.seiki-tsushin.com/sensing/>

光ナノテクフェア2007

お問い合わせ：日本光学測定機工業会

Tel：03-3435-8083

<http://www.j-oma.jp/>

■SSII07に付いてのお問い合わせ

【画像センシング技術研究会 事務局】

〒169-0073 東京都新宿区百人町2-21-27

(株)精機通信社 気付

Tel：03-3367-0571 Fax：03-3368-1519

Mail:info@ssii.jp

■SSII07実行委員会(一部選定中)

実行委員長 鷲見和彦(三菱電機)

運営委員会：奥富正敏(委員長・東工大)

- 財務部会：山口順一(部会長:香川大)
下村倫子(副部会長:日産), 長谷川 修(東工大)
- 庶務・会場部会：竹島秀則(部会長:東芝)
長谷川 修(副部会長:東工大), 池原雅章(慶應大),
斎藤英雄(慶應大), 田中正行(東工大)
- 広報部会：加藤邦人(部会長:岐阜大)
青木義満(副部会長:芝浦工大), 佐藤雄隆(産総研),
寺田賢治(徳島大)

プログラム委員会：山田敬嗣(委員長・NEC)

- チュートリアルセッション部会：
奥富正敏(部会長:東工大)
下村倫子(日産), 堀 修(東芝), 大場英史(ソニー)
- オーガナイズドセッション部会：堀 修(部会長:東芝)
佐藤真一(国立情報学研究所), 前田賢一(東芝),
山田啓一(名城大)
- ライブデモセッション部会：斎藤英雄(部会長:慶應大)
黄瀬浩一(大阪府立大), 北原 格(筑波大), 増田 健(産総研),
向川康博(大阪大)
- インタラクティブ&オーラルセッション部会：
橋本学(部会長:三菱電機)
梅崎太造(副部会長:名工大), 青木義満(芝浦工大),
秋山いわき(湘南工科大), 安部雄一(日立), 内山俊郎(NTT)
恩田寿和(明電舎), 呉 海元(和歌山大), 小坂明生(オリンパス),
小室 孝(東大), 佐藤真智子(東京工芸大), 清水雅夫(東工大),
下村倫子(日産), 諏訪正樹(オムロン), 曹 芸芸(松下電器),
瀧 剛志(中京大), 寺田賢治(徳島大), 長田典子(関西学院大),
日浦慎作(大阪大), 藤吉弘巨(中部大), 本郷仁志(三洋電機),
村上和人(愛知県立大), 目加田慶人(中京大), 八木康史(大阪大) 横山 敦(ソニー),
劉 偉(ファースト)
- 出版部会：有田大作(部会長:ISIT)
斎藤英雄(慶應大), 木村 誠(産総研)
- 表彰小委員会

■組織委員会

中島真人(慶應大), 秋山いわき(湘南工科大), 池内克史(東大), 大患俊一郎(徳島大), 奥富正敏(東工大), 金子俊一(北大), 川出雅人(オムロン), 久間和生(三菱電機), 久野義徳(埼玉大), 小坂明生(オリンパス), 輿水大和(中京大), 坂上勝彦(産総研), 佐々木 繁(富士通研), 佐藤幸男(慶應大), 鷲見和彦(三菱電機), 全 柄東(千葉大), 高橋 宏(日産), 田島謙二(名古屋市立大), 土井美和子(東芝), 豊田晴義(浜ホト), 中川泰夫(日立), 橋本周司(早大), 秦 清治(香川大), 福本晴継(デンソー), 藤田浩一(トヨタ), 山田敬嗣(NEC), 山本 新(名城大), 油田信一(筑波大), 横山 敦(ソニー)

Symposium on Sensing via Image Information

第13回画像センシングシンポジウム

SSII07

2007年6月6日(水)～8日(金) in パシフィコ横浜
アネックスホール

実用になる画像センシング技術、この一年のトレンドと最先端

発表募集

第13回 画像センシングシンポジウム

13th Symposium on Sensing via Image Information

2007年6月6日(水)～8日(金)
パシフィコ横浜アネックスホール

<http://ssii.jp/>

第13回画像センシングシンポジウム 発表募集

13th Symposium on Sensing via Image Information (SSII07)

<http://ssii.jp/>

期 日：2007年6月6日(水) - 8日(金)
6日：チュートリアル
7,8日：シンポジウム

場 所：パシフィコ横浜アネックスホール

〒220-0012横浜市西区みなとみらい1-1-1

■主催 画像センシング技術研究会 (会長：慶應義塾大学・中島真人)

【協賛】映像情報メディア学会 応用物理学会 可視化情報学会
画像電子学会 計測自動制御学会 情報処理学会 精密工学会
電気学会 電子情報通信学会 日本医学放射線学会 日本印刷学会
日本顔学会 日本生体医工学会 日本核医学会 日本機械学会
日本航空宇宙学会 日本材料学会 日本写真学会 日本写真測量学会
日本超音波医学会 日本バーチャルリアリティ学会 日本非破壊検査協会
日本リモートセンシング学会 日本ロボット学会 溶接学会
レーザー学会 (予定)

【協力】電子情報通信学会パターン認識・メディア理解研究会、
情報処理学会コンピュータビジョン・イメージメディア研究会

■ごあいさつ(SSII07実行委員長：三菱電機株式会社 鷺見和彦)

1995年以来毎年初夏の横浜ベイエリアで開催してきた画像センシングシンポジウム(SSII)は、高度で実用的な画像技術をめざす研究者・技術者の研究発表と交流の場として発展してきました。SSIIの特徴であるインタラクティブ&ショートオーラルセッションでは、多くのプレゼンターが研究成果の有用性や創意工夫を積極的にアピールしています。ライブデモセッションでは実際その場で動作させることにより実用性をより効果的に訴えられます。オーガナイズドセッションでは開発トレンドに沿ったテーマを選び、第一線の研究者の講演とディスカッションを通じて最新技術動向が学べます。参加者の方々に満足していただくことを第一の目的としたSSIIは150件を超える発表と900名の参加者という規模にまで成長しました。

SSIIでの発表は、実務経験のある意欲的な参加者からアイデアやコメントをもらえるチャンスであり、ここでの評価は産業界の評価として信頼できる価値があります。SSIIは発表者と参加者が共同研究や事業化へ進むきっかけにもなるでしょう。また、SSIIは学術・応用両面に秀でた数十名の産学プログラム委員によって運営され、応募原稿と論文に対して、研究と発表をよりよくするための有益な助言を得ることができます。そして発表者も含め、参加者の方々が画像技術を通じて新鮮な驚きと感動を得る、そのようなシンポジウムを目指しております。皆様方の積極的な研究発表・応募をお待ちしております。

■発表の性格およびその応用分野

本シンポジウムは、基礎から完成のレベルまで研究ステージにかかわらず、実用化を明確に意識した画像技術研究の発表の場です。実際に使われるという目的を持った研究であれば、応用分野の如何は問いません。基礎的、理論的な研究であってもその目的が将来的に実用的な画像技術を目指すものであればご発表可能です。発表の研究内容に必ずしも高い学術性を求めるものではありません。

また、学術論文として既発表であっても本シンポジウムにふさわしい内容であるならばご応募いただいて結構です。ただし、著作権等については発表者に責任をお持ちいただきます。

■発表募集するセッション

SSIIの公募セッションは、発表者と参加者のコミュニケーションを重視し、インタラクティブ&ショートオーラルセッションとライブデモセッションで構成されます。

(1) インタラクティブ&ショートオーラルセッション

参加者と一対一で対話できるセッションで、本シンポジウムの基本となる発表形式です。創意あふれる発表方法によって参加者にアピールしてください。また、本セッションでは全員の方に発表に先立って3分間の口頭発表(ショートオーラル)を行っていただきます。多くの参加者に興味を持っていただき、発表のポイントを理解していただくためにご活用ください。

なお、本シンポジウムではポスタによる掲示だけでなく、実際に作製した成果物の展示を推奨しています。

(2) ライブデモセッション

今回のライブデモセッションでは、画像処理を使って実際に動作するシステムの展示を募集します。カメラ付き携帯・PDAのような小規模なハードウェアから、専用画像処理ボードを搭載したPCと高性能カメラ等の組み合わせなど、動作するシステムの規模は問いませんが、展示場で実際に動作して、その場で処理結果や動作の様子が確認できることが条件です。SSIIでは実用性を重視する立場からライブデモセッション発表を高く評価しています。参加者の注目、表彰・取材の可能性など、発表者にとっても有益な発表方法です。

シンポジウムでは以上の公募によるセッションの他、分野に精通したオーガナイザが企画し、トレンドを押さえた講演とパネル討論からなるオーガナイズドセッションが企画されています。オーガナイズドセッションは発表募集を行いませんが、特にご希望やご提案がある場合は裏面のSSII事務局までお問い合わせ下さい。

■注目発表・優秀発表の表彰

本年から、本シンポジウムでは、応募された発表の中から、新規性・実用性などの多面的な観点から特に注目すべき発表を、注目発表として選定いたします。選定にあたっては、応募原稿、応募チェックシートならびにカメラレディ原稿の査読により厳正に審査いたしますので、実用性、完成度、先進性、見所、アピールポイントを明快に主張して執筆してください。さらに、発表の場に参加された方々の投票と表彰委員会による審査を行い、社会あるいは産業への貢献が大きいと認められた発表については優秀発表として表彰します。ライブデモセッションの発表も表彰の対象です。

■応募方法・査読

完全な電子投稿です。応募はシンポジウムWebサイト(<http://www.ssii.jp/>)で受け付けます。このサイトから以下の書式ファイルをダウンロードし、記入の上ご投稿下さい。

(1) 応募原稿 (全員・標準2ページ)

題目、著者名、所属、連絡先(E-mail, Tel, Fax)、発表の概要。

(2) 応募チェックシート (全員)

発表内容に関する自己評価、必要設備(電源・場所)の要望。

(3) デモ企画書 (ライブデモセッションのみ)

展示するシステムの動作と展示の様子(フォーマット自由)

シンポジウムのサイトから用紙をダウンロードしてご記入の上、ご提出下さい。プログラム委員会では応募原稿をもとに査読を行い、採否を決定します。応募要領の詳細や応募原稿の書式(ファイル)等はシンポジウムWebサイトで公開します。

■カメラレディ原稿

発表が採択された方には、電子版予稿集用のフルレングス原稿(標準4ページ、最大8ページ)、及び印刷版予稿集用のダイジェスト原稿(1ページ)の両方をご提出いただきます。(フォーマット、投稿手続きの方法など、詳細は後日シンポジウムWebサイトにてお知らせします)

■スケジュール

発表応募期限: 2007年2月9日(金)

採否決定通知: 2007年3月上旬(予定)

カメラレディ原稿提出期限: 2007年3月30日(金)